



2018年  
11月1日  
No.106

# 福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



夢への輝き  
京都から全国へ!

## きょうざれん全国大会 オープニングセレモニー

障害者就業・生活支援センターこまち  
相談員 佐々木清高

19年ぶりに京都で開催されたきょうざれん全国大会は、「ともに生きる」ともに創る 夢ある未来へ 京都から」のスローガンのもと、障害当事者約2000名をはじめボランティアを含め実に5500名が国立京都国際会館に集い開催されました。

大会運営組織の利用者援助部では「利用者主体でステージ発表をしよう!」と昨年6月から約15か月間、企画立案を進め、太鼓、歌、そしてステージ企画の「劇」と大会成功に向けて、練習を重ねてきました。

そして大会当日、オープニングセレモニーでは、祭りをテーマにした開幕太鼓で全国のみなさんをお迎えし、大会テーマソング「みんないっしょ ずっといっしょ」の大合唱で会場全体がすてきな歌声と大きな笑顔に包まれました。

ステージ企画では、それぞれの地域での運動やとりくみを「劇」で紹介し、障害当事者の「今」を迫真の演技で表現されました。出演前の緊迫感から、出演後一瞬にして達成感に満ち溢れた様子が印象的でした。

セレモニー最後の「きぼうの森をそだてよう!」では、利用者それぞれのねがいや思いを書いた「きぼうの葉」が大木となりそして森となり大きく広がっていく様子が、とても印象的でした。このきぼうの森のように、障害のある人の生活が豊かに広がっていくことを願います。

全国大会基調報告

「原点に立ち返り歴史に学び未来を創り出す実践を！」

仲間が中心になり作り上げた感動的なオープニングステージの後は、きょうされん藤井克徳専務理事による基調報告がおこなわれました。今回の全体会はメインホールとアネックスホールの2会場でおこなわれたため、アネックスホールでは、メインホールで報告されている基調報告をスクリーンに映し出しての報告となりました。

「アネックスホールのみなさん、聞こえていますか」との藤井専務の呼びかけにアネックスホールで参加している方たちが手を振って応えるという微笑ましいやり取りのあと基調報告がスタートしました。

はじめに、1878年に古河太四郎氏により設立された「府立盲啞院」や、青木嗣夫氏が中心となり桑飼小学校から始まった障害児教育、京都北部の障害のある子どもやその親の願いが実った与謝の海養護学校など、京都から始まった障害児教育の歴史を紹介。

その後、相次ぐ災害の発生や、三田市での精神障害のある方への座敷牢事件、旧優生保護法による強制不妊手術の問題、中央省庁による障害者雇用水増し問題、生活保護費引き下げの問題、露骨な成

きょうされん京都支部

組織委員長

山口高志

果主義の考え方が持ち込まれた2018年度障害福祉サービス報酬改定の問題など、わたしたちを取り巻く厳しい情勢の報告がありました。

そのような情勢の中、わたしたちは原点に立ち返り、歴史に学び、未来を創り出す実践を取り組むことが大切であると呼びかけがありました。夢ある未来をともに創り、ともに生きる「ための礎になる大会」となるように、参加者の心もぐつと高まる基調報告になりました。



基調報告をおこなう藤井克徳専務理事

きょうされん第41回全国大会in京都の成功を力に、誰もが分け隔てなく生きていける社会の実現を

2018年9月21日(金)・22日(土) 国立京都国際会館において、きょうされん第41回全国大会in京都が開催され、大きな成功を収めることができました。

今大会は、きょうされん京都支部の地道な活動の中でつながった、障害分野はもとより高齢分野、京都府社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会や京都生活協同組合、京都弁護士会、労働組合など、社会保障の充実を願う43の団体と尾藤廣喜弁護士に実行委員会に加わっていただいて、準備をすすめてきました。

今年度はわが国が障害者権利条約を批准して5年となる節目の年です。国際シンポジウムでは、国連障害者権利条約特別委員会の元議長であるドン・マッケイ氏と、国連障害者権利委員会の前委員長であるマリア・ソリダード氏を招き講演をいただくとともに、京都の障害当事者からの発言も交えて、世界の水準から日本の障害者施策のレベルを検証し議論を深めました。各分科会では、「障害のある人もない人も誰もが分け隔てなく生きていける社会」を目指して互いに学びを深めました。

きょうされん京都支部

事務局次長

小谷勝己



上段：全体開会式  
下段：国際シンポジウム

水増し」事件や旧優生保護法による強制不妊手術問題など障害のある人たちの人権侵害に関わる問題が起こっています。全国各地で多くの障害のある人や家族が生きる上での困難さに直面しています。40年にわたるきょうされん運動の歴史と伝統を引き継ぎつつ、大会スローガンである「ともに生きる」ともに創る「夢ある未来へ京都から」の実現に向け、力を合わせていくことを参加者一同、確信とすることができた大会となりました。

仲間の笑顔が広がった！

利用者フォーラムに参加して

みねやま作業所の仲間26名、職員12名できょうされん全国大会in京都に参加しました。国立京都国際会館に到着、玄関前のたくさんの方に仲間から驚きの声。キョロキョロしながら会場であるイベントホールへ向かいます。そして想像以上の広さとすでに始まっている歌のステージに、「広いね！すごいね！」とまたまた驚きの声があがり、これから始まるフォーラムへの期待に胸がふくらみました。そして利用者フォーラムが始まりました。「ゆるキャラ」では仲間もよく知っている「まゆまる」やかわいいゆるキャラが登場し、仲間の大好きなラーメン体操で盛り上がりました。「京扇子づくり」では真剣な表情で和紙に下絵を描き色付けし、思い思いのオリジナル扇子ができあがりました。「組紐づくり」では思った以上に難しく仲間、職員共に頭の中が「？」「？」(笑)。たくさんさんのボランティアさんに協力いただいて、四苦八苦しなながら「やり方覚えてよ」「なんとなくできてきた！」と次第に笑顔が広がってきました。時間内に完成はできませんでしたが、「新しい趣味ができた！」と目を輝かせている仲間もいて、「経験・達成」の大切



「これどうするの？」  
「こっちをこうして、あれれ??」  
笑い合いながらの組紐づくり



京扇子づくり

さを再確認しました。これまでも他県で行われた全国大会に参加して、たくさんさんの「元気、笑い、楽しい」そして、人と人とのつながりを感じてきました。今回の全国大会in京都では、会場全体が一つになり、最高に元気な京都の姿を全国の皆さんに伝えられたと思います。

みねやま作業所  
支援員 市田博也

大交流会「THE京都 仲間が主人公」

えっ？交流会で新喜劇!?

9月21日夜の大交流会のメインは仲間主演の吉本新喜劇風時代劇によるおもてなしです。仲間紛する村人たちが祭りに参加すると、突然「偏見組」の親分たちからまれる。そこへ登場するのが正義の味方「きょうされん組」。親分たちは「きょうされん組」に成敗されるが、しかし、親分には実は悲しい過去が・・・といった内容です。関西風の笑いの中に仲間たちのメッセージを込めた素晴らしいもので、本番の会場は笑いに包まれおおいに盛り上がりました。7月から練習を重ね、リハーサルでは台本を読み込みセリフを暗記している仲間もおられました。すまいるから出演した川上貴子さんは、「全国大会に来られる仲間たちといい思い出を作りたい」と思いブロック長に立候補しました。他のブロック長と集まっていたいろいろ決めました。当日の劇ではセリフを覚え大きな声でしっかりと行って頑張りました。いい思い出になりました。また、みやづ作業所から親分として出演した松原宏和さんは、「僕は京都の全国大会に仲間の実行委員として参加しました。この



「そこは通さねえぞ」



「祭りに行こう！」

一年間みんなと企画を考えたり、劇の練習をしました。劇では親分の役をしました。本番でセリフを忘れてしまいましたが、みんなにうけてよかったです。」と振り返ります。会場で名古屋から参加された方々と話をし「来年は待ってますね。」と言われハッとしました。これで終わりではなく続いていくのだと。来年の愛知大会ではどんなドラマがあるのか今からワクワクしています。

すまいる  
支援員 濱中哲也

# ホリデータイムアソビ

30の方が暮らす「いきいき」では、毎週木曜日を日中に作業をせずゆつくりする日としています。その日を利用して、利用者と職員が1対1で外出する取り組みをおこなっています。利用者の方にとっては1年に1回の機会ですが、グループでの外出や外食と違って、自分の行きたいところに行つて、ゆつたりとした時間を職員といろいろな話をしながら過ごしています。当日までに、担当の職員と相談して、行き先や買いたい物、食べたい物を決めて、心待ちにするのも楽しみになっています。この9月におこなった2名の方の「ホリデー」を紹介します。

## 温泉でほいほい

品川 律夫さん

支援員 中村 麻紀  
支援員 戸田 幸弘

「ホリデーはどこへ行きたいですか？」と尋ねると「温泉と喫茶店と家」と言われました。温泉が大好きで毎年必ず希望されます。またお盆休みにお家の事情で帰省ができません、時々家に電話をして気にしておられたので、帰省も予定に入れ計画を立てました。

9月20日、10時に出発して弥栄

のあしぎぬ温泉へ。温泉では体を洗った後、露天風呂に15分ほどゆつくりつかり、温泉を満喫。昼食は、温泉内のレストランで、カツカレーと野菜サラダ。カレーはふだんから大好物です。美味しく食べたあとは、お母さんへのプレゼントを買うために峰山に行き、花屋で観葉植物を選びました。

自宅へ向かう道中では、「いつも黒いタクシーで帰るんだ」「お母さんに会うのは久しぶりやな」とうきうきと話をされ、笑顔で玄関に。ご両親にプレゼントを渡し、しばらくの時間を過ごし、「また帰ってこいな」と言ってもらいました。そのあと喫茶店でサンドイッチとコーヒーでくつろぎました。缶コーヒーも大好きですが、ゆつくり喫茶店で飲むコーヒーは格別です。いきいきでは、「楽しかったで〜」と笑顔いっぱいたくさん話をされました。



好きなことができて大満足の1日でした

## 大好きなお買い物

細井 美佐代さん

支援員 上田 ゆり子

ふだんから、工作をするのが好きで、折り紙や画用紙などいろいろほしいと言っておられる細井さん。今回のホリデータイムでは、買いたい物をメインに峰山方面にお出かけしました。「マイン」に向かう道中、「背負うもんがほしい」といわれ、店内に入つて一番にリュックを見にいきました。ピンクや赤のリュックを手にとつてじっくり検討し、ピンクのリュックを選びました。次に、「ダイソー」に向かい、「算数のノートがほしい」とノートや便せん等、文具品を購入。そのあと「くりくり」で、パウンドケーキを1つ買って、コーヒーと一緒に少し休憩しました。その時に、隣のお店に飾ってある着物が見え、「ほれ、見ないなあ、着物がある！」と、とても嬉しそうでした。細井さんは着物が大好きで、



「よいしょ、よいしょ！」



「次はこれ！」

いきいき夏まつりでは毎年ゆかたを着るのを楽しみにしています。トイレではジェットタオルに手を入れた瞬間、「うわっ！なんなん、こわい」と、急いで手を引きながらも、人生初のジェットタオル体験はとても楽しそうでした。昼食は、「スシロー」です。帰省した時にご家族でも行かれるようで、コップの場所もよくわかり、職員の分も用意する面倒見のよい細井さんでした。お寿司は自分の好きななまち、サーモン、たまご・・・と9皿完食。

その後、「しまむら」で、衣類、タオルなど買いたい物をして、「バザール」でおやつを購入し、途中ケ丘公園でおやつにしました。食べ終わった後、アスレチックに誘うと最初は気乗りしない様子でしたが、丸太の橋を渡り始めると「こわい、こわい」と言いながらも笑顔になり、どんどん前進。滑り台まで辿り着き、一緒に滑りました。ずーっと、笑いながら滑り降りました。曇り空ではありませんでしたが、楽しい時間を過ごすことができました。

# 長岡ホームの仲間の暮らし

長岡ホーム  
主任 西川 悟子

落ち着いた暮らしだけど

長岡ホームには男性ホームと女性ホームがあり、総勢15名の生活の場として機能しています。仲間は日中それぞれ作業所へ行き決まった時間に帰ってくる、という日々を過ごしておられます。休日などには1人で外出する方もありますが、休日や作業所が終わってからの時間を余すことが多く、もつと有意義に過ごせる工夫ができないかと考えています。

5人で遊んで楽しんでね!

去る7月20日金曜日、夕方6時から長岡ホームの裏庭でバーベキューをしました。仲間15名全員と職員、総勢21名で大いに盛り上がりました。夕方になってもとても蒸し暑く「暑いね、喉が渇くわ、クーラーの部屋に戻りたい」と言いながらも、「お肉おいしいね、もつと食べたい」「焼きそばも食べたい」「○○さんと一緒に写真がとりたいわ」。「今度は大江戸温泉バイキングに行こう」と会話にも花が咲き、とてもとても楽しい時間を過ごすことができました。いつもの余暇支援では男性ホームと女性ホーム別々でおこなって



バーベキューのいい匂いと楽しい雰囲気自然と笑顔に



いて、普段の交流が少ない分、会話も弾み、また日中事業所の違う仲間同士がホームの余暇支援をとおして交流ができたことが良かったと思います。また「このお肉食べる?おにぎりいる?」と仲間同士で気遣ったり、「暑いだろ?」とうちわであおぎ合いをしたり、ジュースをつぎあったり、お互いを思いやる場面、そしてふだんとは違う一面を見られてとても嬉しく思いました。次回は外食も考えていきたいですね。

# 宮津新ホーム地鎮祭

ホームすみれ  
管理者 松井 沢美

宮津新ホーム建設計画は順調に進み、9月13日に京都府丹後保健所所長はじめ、当法人関係者、利用者等16名の出席で地鎮祭をおこない工事の安全を祈願しました。宮津地域で初めてのグループホーム『あかつき荘』開所から今日までにそれぞれの障害や環境の変化に合わせて、暮らしの場を作り上げ、このようにまた1つ新しいグループホームができていくことに感慨深いものがあります。

新ホームは身体障害(主に車いす利用)の方、障害の重度化や年齢により歩行が困難になってきている方を想定しています。現ホームはいろいろな箇所に段差があり使い勝手の悪さがあります。新ホームは浴室、脱衣所、洗濯場等へ車いすで移動できるように施設内のバリアフリー化をおこない、トイレ



地鎮祭の様子



レでは移乗用の補助具、浴室には昇降機リフト等を設置します。

建設費用は総額約1億2千万円で借入金と諸活動で集める

1千万円の自己資金を予定しています。この1千万円の自己資金は宮津・伊根地域の事業所や関係団体を中心となり、いろいろな取り組みを計画し、みなさまにご協力をいただき達成をめざしています。

「宮津・伊根地域の作業所を支える会」では、地域の商店・事業所さんに募金箱を設置され、12月には京都府内のきょうされん加盟の各事業所への『宮津ご当地商品』の物品販売、来年3月には着物バザーの取り組みを計画されています。また、各広報誌等をおし、多くの方へ寄付金をお願いをしています。現在、ご協力いただいた寄付金は約32万円(9/30現在)になります。ありがとうございます。今後いろいろな取り組みをおこなってまいります。引き続き、みなさまのご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 『親のつらさ』

## 作業所でがんばっていますー！

野田川共同作業所 利用者家族 西原登紀子

「お母さん、今日は仕事頑張りました」毎日夕食時こう話してくれます。日曜日の夕方になると「また明日から仕事頑張ります」これが一週間の幹人の口癖です。

支援学校を卒業後3年間支援センターの『きらり』に通所して、この春から野田川共同作業所でお世話になっております。きらりでの3年間は幹人にとって実りある時間だったように思います。幹人は集団の中がちよつと苦手、なにより上手く話ができない、相手に思いが伝えられない言葉の障害があります。特にろむでの実践報告会での1年間のまとめの発表では上手く喋れない幹人がどんな発表するのか不安でした。パソコンやパワーポイントを使用し聞き取れない部分の補充をしての発表は多くの方に褒めていただき、京都障害児教育

研修会の場でも同じ発表をさせていただきました。これは本人の自信につながったようです。また月1回のマインのくりくりの販売員の経験は仕事をしてお金をもらおうということを考える場になったようです。作業所で働くことも自分で決めました。

作業所では百円ショップ等で売られるお弁当箱のセットと冷蔵庫が使われるストッカーの組み立てとシール貼りをしているそうです。時々「疲れたー」と言って帰って来ることもあります。今の仕事をしっかり覚えていけるような仕事にも挑戦しているようです。頑張っしてほしいと思っています。



# 坂田三雄様を偲んで

よさのうみ福祉会 理事長 青木一博

去る9月4日、坂田三雄様が90年の生涯を終えられました。坂田様は、舞鶴市内中学校での28年間の教師生活を経て、1977年9月、まいづる共同作業所開設と共に所長に就任。それ以降、舞鶴地域での障害者福祉の向上はもとより、京都府北部地域の障害者共同作業所の開設、共同作業所全国連絡会(きょうされんの前身)ならびに同京都支部の設立と発展に尽力され、すばらしい足跡を残されました。



当よさのうみ福祉会においては、1980年の法人設立以来17年の

長きにわたり理事として法人事業の発展に貢献されました。また、京都北部6福祉会研究委員会代表として長年作業所職員の人材育成や実践の向上、研究活動に多大な貢献をされました。

障害のある人たちの人権保障や平和への熱意、組合運動で鍛え抜かれた組織者としてのリーダーシップ、気さくで飾り気のない人柄は誰からも親しまれ尊

敬されていきました。

坂田様がその成功を祈っておられた「きょうされん全国大会in京都」は、さる9月21日と22日の両日、全国各地から5500名もの参加者とボランティアに支えられ、ともに生きるともに創る夢ある未来を京都から“の大会スローガン”にふさわしい成果を収めました。

坂田様を亡くしたことは私共にとって大きな痛手ですが、故人の遺志を受け継いで法人職員・関係者一同今後の実践、事業と運動の発展に頑張ります。どうか安らかに眠り下さい。



まいづる共同作業所 草創期の後援会の様子

# モットーは、何でも一緒に楽しむ!!

私は、以前にも作業所で勤めていたことがあり、長年、障害者の方がかかる仕事があったという強い思いを持っていました。7か月の長男を抱えながらも、職員募集をしているという情報を聞いたとき、このチャンスを見逃さないぞ!と夫を説得し採用試験を受けました。あれから11年。その長男は、もう私を見下ろすほど大きくなりました。この11年で私も成長できたでしょうが?

## リレー随想



みやづ作業所

主任 西垣 幸子

えす、一緒に乗り越えられたと共感できるように、日々楽しみながら向き合っています。あわせて、なかまを取り巻くさまざまな環境の変化やご家族の思い、数年後を見据えた支援を考えることができるようにこれからも努めています。

その中の印象的なある出来事です。何年も一緒に過ごしていた方の発するフレーズがどうしても聞き取れなくて、何度も何度も聞き返していました。ある日、入浴介助中に湯船につかりながら同じフレーズを言われていて、それが童謡のワンフレーズだと分かった時、お風呂の中で思わず「ヤッター」と叫んでしまいました。何とも言えない表情で応えてくれ「つながった」と思いました。わかり合えた瞬間、こ

次回は  
障害者就業・生活支援センター  
相談員 野村和弘です。

## ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。  
2018年8月10日〜2018年10月2日  
(順不同・敬称略)

- |       |          |
|-------|----------|
| 市川 迪彦 | 真下まゆみ    |
| 登川弥寿子 | 佐々木治子    |
| 星 幸敏  | 新宮加枝子    |
| 谷口 佳子 | 榎谷 恵吾    |
| 小長谷房子 | 社会福祉法人桃郷 |
| 清水 雅子 | 日下部みはる   |
| 大泉 邦暉 | 永濱 誠彦    |
| 渡辺 和美 | 糸井 政二    |
| 西垣三衛子 | 磯部 光     |
| 高岡 弘安 | 成松 勤子    |
| 藤原さつ紀 | 和田 順一    |
| 谷川 宏  | 小出 治男    |
| 上前 衛  | 大西 祥之    |
| 飯井みどり | 藤原 雅美    |
| 森永 幸代 | 糸井 貞雄    |
| 木下 博美 | 西井 利治    |
| 佐々木 稔 | 川村 康好    |
| 森垣 敬子 | 拜野 節子    |
| 伊達 順子 | 阿路川 祐子   |
| 山崎 住男 | 青木 一博    |
| 櫻井美奈子 | 小倉 千明    |
| 中上 清吾 | 側田 良考    |
| 東 理代吉 | 戸田 孝子    |
| 日下部星男 | 奥野 文雄    |
| 神農 明男 | 塩見 孝司    |
| 小田 栄子 | 上野 誠二    |
| 下岡久美子 |          |

クリエイトショップくりくり職員一同  
その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

## 編集後記

台風が週末ごとにやってきた今年の初秋。猛暑がいつの間にか過ぎ去って肌寒さを感じるようになったところに『3か月予報』が出され、「今年は暖冬だ。」との予報。：毎年暖冬だと聞いていた気がする。いや、私の思い違いかも。◆今年も台風で多くのイベントがキャンセルになってしまいました。昨年も立て続けに台風がやってきてグルメイベントが中止になり、販売する予定だったコロッケを300食も在庫として抱えてしまった方がおり、何とかしなければとSNSのネットワークを駆使。急遽友人が自分のお店で販売会を催そう!と提案され、無事売り切ることができたそうです。また、今年の7月豪雨の時には、被害を受けた方の被害状況をSNSで聞きつけ、多くの友人たちが復旧の手助けにやってきたということもありました◆SNSという新しいつながりで誰かが困ったことがあればすぐさま助け合う。SNSは怖い部分もありますが、普段から実際に顔を合わせて情報交換をしていると、いざという時には心強いつながりのコンテンツになると感じる出来事でした。(せ)

作業所と共に  
歩んできたレジエント達<sup>たち</sup>

がんばりすぎないよう  
がんばりたい



ゆうゆう作業所  
水谷 義則

僕は2006年4月20日からゆうゆう作業所に通所していて、今年で12年目になります。最初の1年は作業所に慣れて過ごせるように、1班でウエス作業をしていました。今は2班でかわらけや雑貨の作業をしています。作業はほかにも資源回収やリサイクル作業、下請けなどたくさんあります。2班の若手の仲間に作業のやり方を教えています。自分の経験をいかして農作業や草刈り作業などでアドバイスすることもあります。お昼休みはみんなでゲームをして楽しんでいたりしています。今までに何度か班長や自治会役員、実行委員もしてきました。今回は第41回きょうされん全国大会(京都)の仲間の実行委員をして、なんとか役割を果たせたと思います。作業所内での役割も、若手の仲間にアドバイスしています。

今は毎日楽しく、健康に気をつけて、無理をせず過ごせればと思っています。

昔のこともやで忘れたわあ〜



すまいる  
久保田 真由美

わたしは、与謝の海養護学校を卒業した春から作業所に通っています。通い始めてもう何十年になります。そのときは宮津市鶴賀にあった宮津共同作業所でした。じゃこ袋の三角折や底貼りをしました。忘れたこともたくさんあります。それほど昔です。

作業所で楽しかったことは友達ができたとと飛行機に乗って旅行に行ったことです。仕事で失敗した時はつらかったし悲しかったです。でもみんなが助けてくれました。

今は下請けの仕事をがんばっています。お母さんがおらんようになって暮らせるようにもつと給料がほしいです。それからグループホームの実習もせなあかんと思います。

おやつをもつと買いたいしヘルパーさんといろんな所へ行きたいです。



Vol.2

よさのうみ福祉会の各事業所にはいろいろな作業に取り組む仲間がたくさんおられます。今回はその中から3名の方に登場していただきました。

目標に向かって



リフレかやの里  
石田 景子

支援学校を卒業してから、城陽の訓練校で縫製の勉強をしました。その後、加悦の機屋さんで働きましたが、仕事がなくなり働けずしばらく家にいたところ、夢織りの郷の職員さんから「家にいるなら夢織りの郷に来ない？」と誘ってもらい通い始めました。訓練校できょうされんふきんのミシンかけなど勉強したことができて楽しかったのですが、機屋さんには比べると給料が少なかったため、リフレができた時、家から近く給料ももつともらえると嬉しい異動を希望しました。

農産加工に来てよかったことは「たくさんの友達ができたこと」と「給料が増えたこと」です。今ではピアノの習い事のお金を払ったり、母を食事に連れて行ってあげることができました。

今は第二加工所で果物を切ったり、缶詰の仕事をしようと思いたいので、A型で実習もしながらもつと農産加工で力をつけて頑張るって仕事をしようと思います。